

二〇二〇年度〈高等学校〉国際生入学試験【オナーズ選考】日本語作文

問題 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(設問に字数指定のある場合は、句読点や符号も一字と数えます)

あなたも「日本人は〇〇だ」という表現を使うことがありますか。一口に「日本」といっても、東京と大阪ではずいぶん違うでしょうし、また都市と地方でもさまざまに異なっています。「社会」という<sup>①</sup>カイン<sup>①</sup>がきわめて多面的であり複雑性に満ちたものであることからわかるように、「〇〇国」「〇〇人」と一括して論じることはできません。それを単純に「日本」とか「日本人」と規定してしまうことはとても<sup>②</sup>粗雑<sup>③</sup>で<sup>④</sup>ランボウ<sup>④</sup>な思考だと思いませんか。

このように簡単に一つのガインで対象をとらえてしまう認識を、わたしたちはステレオタイプ(④画一的認識)と呼んでいます。一般にステレオタイプというと、ネガティブな場合をさすことが多いのですが、内容的には<sup>⑤</sup>肯定的・否定的の両方があります。たとえば、「日本人は自然を破壊する」あるいは「日本人は自然を愛する」という言説の両方が、日本人を集団として画一的にとらえている点でステレオタイプであるといえます。

ただ、わたしたちの認識は、常に何らかの価値観をともなっており、絶対中立的な認識というものは存在しませんから、そうした認識の過程でステレオタイプそのものをまったく<sup>⑥</sup>ハイジ<sup>⑥</sup>することは不可能だといっていいでしょう。

別の言い方をすれば、わたしたちが何かを認識するときには、自分にとってわかりやすいものとするために、あえて物事を固定的にとらえるのは、いわば当然のことなのかもしれません。つまり、認識によるレッテル貼りの<sup>⑦</sup>ジクメイ<sup>⑦</sup>から一〇〇%自由になることは、わたしたちにはできないといえます。

ただ、ステレオタイプが問題視されるのは、個人を画一的に<sup>⑧</sup>歪曲<sup>⑧</sup>したかたちととらえ、それがひいては偏見や差別の原因になる可能性があるからです。ステレオタイプの思考や発想によって、一人ひとりの個人の顔が見えなくなり、一対一の対等な人間関係が取り結ばなくなってしまうことが問題なのです。こうしたステレオタイプによって他者を認識することで、コミュニケーションが阻害され、信頼ある人間関係が<sup>⑨</sup>ジュリツ<sup>⑨</sup>できなくなることを<sup>⑩</sup>危惧<sup>⑩</sup>しているのです。

こうしたステレオタイプにとらわれていると、本来、豊かで創造的な広がりのあるはずの対話という活動もきわめて

<sup>⑪</sup>矮小化<sup>⑪</sup>された、つまらないものになりがちです。ですから、わたしたちは、対話という活動を通して、こうしたステレオタイプからいかに<sup>⑫</sup>タツキヤク<sup>⑫</sup>するかという課題と向き合うことができるはずなのです。

(細川英雄『対話をデザインする―伝わるとはどういうことか』より)

\*歪曲…ものごとの内容などをわざとゆがめること。

<sup>⑪</sup>矮小化

\*矮小化…小さくすること。

問一 ー線①～⑩のカタカナは漢字に直し、漢字については読みかたをひらがなで答えなさい。

問二 ステレオタイプのな考え方によって、どのような問題点が起こりうるのか。筆者の考えとして<sup>⑬</sup>適当<sup>⑬</sup>でないものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 人種や民族などにおいて、偏見や差別を引き起こしてしまう可能性があること。
- イ 一人一人の個性に目を向けることがなくなり、対等で信頼のある人間関係を構築できなくなってしまうこと。
- ウ 物事を常に否定的にとらえてしまうことで、肯定的な側面が見えなくなってしまうこと。
- エ 豊かで創造的な広がりのあるはずの対話という活動が、閉鎖的でつまらないものになってしまうこと。

問三 右の文章を読んで、あなたはどんなことを考えましたか。あなたが体験したことも入れて、四百字以内で書きなさい。